

勝浦郡国語研究会のあゆみ

1 本郡の状況

勝浦郡は、3小学校、3名の部員で研究に取り組んでいる。

本年度の郡の研究主題を、県の研究主題と同じ「主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造」とし、日々の授業実践を重ねている。また、授業研究会を行い、その成果を持ち寄り、研修を深めていくことにしている。

2 組織

係校長 大久保 康昭（上勝小）

部長 美馬 富美（生比奈小）

部員 多田 佳代（横瀬小） 吉岡 悦子（上勝小）

3 研究のあゆみ

- (1) 研究主題 主体的・自覚的にことばを学ぶ子どもが育つ国語科授業の創造
「読むこと」を基盤に、知識・技能の習得と活用する力の育成を図る学習指導
- (2) 研修計画
5月12日（火）郡小学校教育研究会 国語部会（生比奈小）
 - ・本年度組織作り
 - ・研究主題の設定と、研修計画の作成
11月20日（金）第24回四国国語教育研究大会（小松島大会）
第32回徳島県小学校国語教育研究大会へ参加
3学期 本年度の反省と次年度に向けての計画

4 実践報告

日時 平成21年10月15日（木）

学習者 生比奈小学校 2年生 20名

- (1) 単元 かんじたことを
- (2) 単元について

1年生では言葉のリズムやしかけを楽しむ言葉遊びうたの創作をしている。言葉遊びは、語いを増やし、言語感覚を豊かにするのに有効な学習方法である。2年生になって、詩の鑑賞については4月単元の教材文で学習している。それらをふまえて、本単元では自分の感じたことや思ったことなどを五感を働かせ短い言葉で表現し、その楽しさを味わわせたいと考えた。

- (3) 単元の目標

学習者の活動目標

毎日の生活の中で見たことやしたことから、思ったり感じたりしたことを短い言葉であらわそう。

指導目標

- ・教材の児童作品を読み、書き方の良いところを見つけることができるようにする。
- ・体験したことの中から、心に残っていることを書き出せるようにする。
- ・書きたい事柄に関する言葉や文をつなげて、ひとまとまりの作品を仕上げることができるようにする。
- ・完成した作品を読み合い、感想を伝え合うことができるようにする。

(4) 学習計画（略）

(5) 本時の学習（4 / 4）

本時の目標

学習者の活動目標 友達と作品を読み合い、感想を伝え合おう。

指導目標 作品を読み合い、心に残った言葉や表現・おもしろいと思ったところなど感想を伝え合うことができるようにする。

学習を終えて

共通体験のもとに作品を作ることが、感想も伝えやすいと考え、学習計画の中に「シャボン玉遊び」を位置づけた。そして、印象の新たなうちに自分の書きたいことにつながる言葉や文を思い浮かべ、順序を考えながらつなげて作品に仕上げていった。また、作品を読み合い感想を伝え合う時には、心に残った言葉や文、おもしろいと思ったところなどよいところに目を向けるよう話した。伝え方は手紙形式の用紙に書かせた。

- ・ さんのので、さいごの「シャボン玉は学校がすきなのかな。」ってところが上手だと思いました。シャボン玉の気もちがわかっているようです。
- ・ だいのつけ方がいいです。「くるくる ふわ パチン」わたしは思いつきませんでした。それに、「シャボン玉の中にぼくがいる。」という文もすごくいいね。
- ・ 「じっと見ていると色がかわっていく。」というのはほんとだね。わたしもそう思ったよ。それと、「校しゃの三がいをこえておくじょうこえて、見えなくなった。」というのも、シャボン玉をずっと目でみおくっていたようすがつたわってきたよ。

お互いの作品を読み合い、感想を伝え合う学習をしたことが、また詩を書きたいという意欲につながったり、表現の仕方に友だちの良さに学んだことが反映できたりしていた。発展学習として自由題でも作り、2編ずつを掲載した作品集を作ったところ、子どもたちは満足感いっぱい家庭に持ち帰った。

5 おわりに

少人数のため、活動も限られてくるが、それぞれが日々の実践の積み重ねを大切に、これからも研修を続けていきたい。

（生比奈小学校教諭 美馬 富美 記）